

地震災害軽減のためのダメージフリー構造 技術に関する調査研究小委員会

小委員会の設立背景

- 人命や生活を守る上で社会基盤構造物の果たす役割は大きく、可能な限りの被害最小化と災害発生時の迅速な事後対応への備えが求められている。
- 超過外力に対する影響評価や対策技術の開発も喫緊の課題で、地震後の迅速な健全度判定技術も必要とされている。

活動目的

- 我が国が置かれる地震環境や最近の技術開発を踏まえ、今後の地震災害軽減に必要とされる次世代の技術展開について調査研究を行う。
- 活動期間：2020年4月～2024年3月（4年）

委員

計27名

委員長	伊津野 和行(立命館大学)
副委員長	運上 茂樹(東北大学)
幹事長	松崎 裕(防衛大学校)
幹事	藤倉 修一(宇都宮大学), 党 紀(埼玉大学), 川崎 佑磨(立命館大学), 武田 篤史(大林組)
委員	石川 達也(JIPテクノサイエンス), 井上 和真(群馬工業高等専門学校), 植田 健介(ビー・ビー・エム), 江口 康平(国立研究開発法人 土木研究所), 何 昕昊(東北大学), 金田 崇男(本州四国連絡高速道路), 熊崎 達郎(大林組), 幸左 賢二(九州工業大学名誉教授), 玉野 慶吾(鹿島建設), 田村 康行(日鉄エンジニアリング), 流 智子(川金コアテック), 西谷 朋晃(高速道路総合技術研究所), 平野 翔也(阪神高速道路), 三木 俊海(オイレス工業), 右高 裕二(首都高速道路技術センター), 矢口 繁(建設技術研究所), 吉田 純司(山梨大学), 四井 早紀(立命館大学), 余野 智哉(ビー・ビー・エム), 林 祉青(川金コアテック)

2020年度の活動報告

- 2020年度第1回委員会:4月15日 オンライン 22名参加
(活動方針に関する審議)
- 2020年度第2回委員会:7月15日 オンライン 23名参加
(話題提供および各委員からの活動予定報告)
- 2020年度第3回委員会:10月23日 オンライン 21名参加
(話題提供およびダメージフリー設計法に関する議論)
- 2020年度第4回委員会:1月29日 オンライン 21名参加
(新材料・新構造に関する議論)

2020年度の行事

日本建築学会会長による講演会

「超高層建築のレジリエンスを高める

免震と制振のハイブリッド構造」

竹脇 出 京都大学教授

2021年1月29日 オンライン 186名参加

2021年度の活動予定

- WG1: ダメージフリーの考え方および設計法
 - 超過外力の大きさや種類, 目指すべき損傷レベル
- WG2: 新材料・新構造・デバイス
 - ダメージフリー構造を実現するための新材料や新構造
- WG3: モニタリングや地震後の診断技術
 - ダメージフリーであることを検証するため必要な技術

行事等

- 今年度は特に行事の企画はなく、ワーキンググループを中心とした活動を行う。
- 2020～2021年度の活動をまとめ、2022年度の夏をめどに講習会もしくは報告会を開催する。